

# 第1回 小瀬・池尻長良川河畔における ミズベリング事業検討ワークショップ



開催日：令和6年2月1日 参加者：約30名（民間事業者11名）  
場所：せきてらす多目的ホール 主催：関市

関市では、河川利用のルール策定や鶴飼・円空等の文化資源を活用した観光拠点整備を目的に、小瀬・池尻長良川河畔におけるミズベリング事業の実施を検討しております。

これに伴い、事業の実施主体となる民間事業者の意見を反映するため、関市で初めてのミズベリングの勉強会および意見交換会となる「小瀬・池尻長良川河畔におけるミズベリング事業検討ワークショップ」を開催しました。

## 1) 勉強会

全国で水辺活用事業の支援を行う（公財）リバーフロント研究所より、宮川幸雄氏を講師としてお招きし、ミズベリングおよびかわまちづくりの概要について講演いただきました。



## 2) ワークショップ

3グループに分かれて、参加者ごとに「自身の水辺との関わり方」や「水辺を活用してやってみたいこと」、「課題と感ずること」をワークシートに記入し、グループ内で共有しました。



### <水辺を活用してやってみたいこと>

- ・河川沿いを歩くウォーキングコースの整備
- ・春に桜を見ながら楽しめる観覧船の運行
- ・カヌー、サップなどの水上アクティビティ
- ・現在の景観を生かした川床の設置
- ・河原での音楽イベントやマルシェの開催
- ・手ぶらで楽しめる河川敷でのピクニック
- ・小瀬鶴飼の高付加価値
- ・インバウンド旅行客向けの鶴飼体験
- ・長良川ISAから河川に下りられるルートを作る
- ・小瀬鶴飼の事務所前に飲食、土産施設を整備
- ・川、円空、弥勒寺、アクティビティでエリア全体の回遊性を高める 他

### 参加者の声

### <課題となってくること>

- ・河川が天候の影響を受けやすく増水が多い
- ・外国人観光客が多い
- ・BBQ客のマナー（ゴミ、騒音）
- ・駐車場が少ない
- ・交通アクセスが不便
- ・資源は豊富だが人材が不足している
- ・行政、民間の役割分担ができていない 他

次回のワークショップは  
令和6年4月実施予定